かるちゃ〜ナビ

ザ・見遊(みゆ〜)じあむ

6

狭山池博物館

（大阪狭山市）

狭山池は日本最古のダム式の農業用ため池として知られ、古事記や日本書紀にも登場します。奈良時代には行基、中世には片桐且元などによる度重なる修理、拡張を経ながら現在まで農業用水の供給源として大きな役割を担ってきました。そして、「平成の大改修」として、洪水調節機能を持ったダムに改修する工事が1988年から着手、2001年3月に完成し、同時に、この狭山池をめぐる歴史や土木遺産を保存・展示する博物館もオープンしました。池底を3メートル掘り下げ、農業用水180万立方メートルの上に、10万立方メートルの雨水を貯めることができます。

エレベーターで館内に入ると、豊富な水が、エントランスの壁を流れ落ちる特異な風景に驚きます。さらに驚くのは、この1400年にわたる狭山池の改修の歴史を、実際の堤の断面を切り取って移築し展示されていること。

日本最古のダム式農業用ため池

狭山池が見渡せる堤にあがると、1周2850メートルの整備された遊歩道に、博物館を設計した安藤忠雄さんの提案で、サクラが植林されていました。4月に入ると、みごとなサクラ並木が地域の人々を楽しませてくれるでしょう。

安藤忠雄氏の設計による狭山池博物館

ミュージアムメモ

▶所在地／〒589－0007大阪狭山市池尻中2丁目▶入館料／無料▶開館時間／午前10時～午後5時▶休館日／月曜日、年末年始▶交通／南海電鉄高野線大阪狭山市駅から徒歩10分▶問い合わせ／0723－67－8891

「ナルニア国物語」第1章・ライオンと魔女

4人の兄妹が活躍する壮大なファンタジー

2001年から3年間で3作続いた「ロード・オブ・ザ・リング」、そして同じく2001年から現在まで4作続いている「ハリー・ポッター」シリーズと、イギリスには長大なファンタジー物語が多くあります。この「ナルニア国物語」もそのひとつで、1950年にC・S・ルイスがその第1作目「ライオンと魔女」を発表しました。作品には「ロード・オブ・ザ・リング」で登場した小人のキャラクター・ドワーフもでてきます。原作者のルイスが「ロード・オブ・ザ・リング」を書いたトールキンと親しかったからでしょうか。

第2次世界大戦さなかのイギリス。ドイツ軍の空襲から逃れるために、田舎にあるカーク教授の家に疎開したスパンシー一家の4人の兄弟姉妹。引き取られた邸宅には古くて大きな衣装タンスがありました。遊んでいるうちにこのタンスの中に迷いこんだ末っ子のルーシーは、不思議な世界に入りこんでしまいます。そこは真っ白な雪の世界で、不思議な動物たちに囲まれています。さあ、そこがナルニア国でした。

白い魔女が支配する冬のナルニア国で、4人の兄弟姉妹たちは、長い冬の時代を暖かい世界にしようと、救世主のライオンたちと協力し、冬の時代から春の時代を求めて、白い魔女軍とたたかい、大活躍します。

ウォルト・ディズニー製作だけに、ライオンをはじめ、ビーバー、狼、キツネ、馬などの動物が、自由自在に言葉を語り合うのも特徴です。しかし、なんといっても、一番の存在感は「白い魔女」とライオンです。さて、早くも第2章が待ちどおしい映画です。

このシネマがえいが

摂津 河内 和泉 おおさか三国誌

6

（守口市）

江戸川乱歩と守口 名探偵・明智小五郎誕生の地

江戸川乱歩は1894（明治27）年に三重県名張市で生まれました。日本のミステリー、探偵小説の草分けとして、いまもなお、その多くの作品は映画やドラマ、舞台にとりあげられています。「少年探偵団」や名探偵・明智小五郎をつくりだしたのも江戸川乱歩でした。

早稲田大学を卒業し、1920（大正9）年に大阪にいた父を頼って大阪に出て、主に生活していたのが守口や門真あたりでした。大阪では5回も住居を変えましたが、とくに、1924（大正13）年から1926（昭和1）年までの2年間、守口町外島694番地（現在、守口市八島町）にあった洋風の家に住み、この家の2階を書斎にして作品を書きました。この時期に世に出したのが、名探偵・明智小五郎を生み出した『D坂の殺人事件』でした。また、この当時は大阪毎日新聞の広告部にも勤めていました。このように2年間を過ごした守口は乱歩にとって多くの作品のトリックや構想を練った場所でもありました。

地下鉄守口駅の2番出口から国道1号線に出て、小道にはいったところに今もこの家が残っています。乱歩のあと、この家屋は産婦人科医院になっていましたが現在は空き家状態といいます。家の前には「江戸川乱歩寓居の跡・名探偵・明智小五郎誕生の地」と記されたプレートがはめ込まれてあります。

地下鉄守口駅をおりてすぐのところにある乱歩の旧宅

大阪の戦跡を歩く 第5歩

真田山陸軍墓地

（大阪市天王寺区）

ズラリと並んだ墓石

4万7300の遺骨・4700の墓碑が

大阪市天王寺区にある真田山公園。上町台地の高台に、野球場やプールもあり、市民の憩いの場所です。公園に隣接して、真田山陸軍墓地があります。ひっそりと静かな墓地はここだけ別世界のようです。日清、日露戦争以降の4万7300の遺骨、4700あまりの墓碑があるといわれています。戦前、大阪府には陸軍墓地が、真田山、高槻、信太山の3カ所にありました。戦時中、「大政翼賛会」「大日本産業報告会」が発足。戦争へ国民総動員体制のもとで、国民に戦争協力が強制され、職場・地域では募金を募り、陸軍墓地、護国神社での英霊参拝、陸軍病院などへの見舞いなどが行われていました。

いまも心に響く名詩・名歌・名語録

「千曲川旅情の歌」
作・島崎藤村

「小諸なる古城のほとり／雲白く遊子悲しむ／緑なすはこべは萌えず／若草もしくによしなし／しろがねのふすまの岡辺／日に溶けて淡雪流る　あたたかき光はあれど／野にみつる香りも知らず／浅くのみ春はかすみて／麦の色わずかに青し／旅人の群はいくつか／畠中の道を急ぎぬ　暮れ行けば浅間も見えず／歌かなし佐久の草笛／千曲川いざよう波の／岸近き宿にのぼりつ／濁り酒にごれる飲みて／草枕しばし慰む」（遊子…旅人、草枕…旅先でのわびし宿り）

「山のあなた」
カール・ブッセ

「山のあなたの空遠く／「幸」住むと人のいう／ああ、われひとと尋めゆきて／涙さしぐみかえりきぬ／山のあなたになお遠く／「幸」住むと人のいう」
海外の詩の中でもっともよく知られた詩のひとつ。1905（明治38）年、上田敏の訳詞集『海潮音』に収められた詩です。1960年代、三遊亭歌奴（現円歌）の『授業中』という落語で、この詩を浪曲でうなる生徒を演じ大ヒットしました。